

## 【消化器内科】

### バレット食道 その2

国吉病院

院長 国吉 宣俊 さん

バレット食道は、食道下部の粘膜が胃から連続して同じ円柱上皮に置き換えられた状態をいいます。原因については前回述べましたが、胃酸の逆流により食道粘膜が炎症を繰り返し、細胞が変性すると考えられています。欧米においてバレット食道から発生するバレット食道がんは最も高い増加率を示しており、米国では食道がんにおける扁平上皮

がんと腺がんの比率は逆転し、約6割が腺がんとなっています。バレット食道発生と発がんのリスクはリンクしていますが、バレット食道の診断は内視鏡検査でしか確認はできません。食道の扁平上皮に比べて赤っぽい円柱上皮が発見されたら、組織を採取して腸上皮化生の存在を確認する必要があります。バレット食道は、高齢、男性、肥満、喫煙、逆流



性食道炎、ピロリ菌非感染、大腸腫瘍の存在が高リスクとして考えられています。治療は酸の逆流を抑える薬を使用しますが、バレット食道がなくなることはありません。バレット食道は定期的な専門の医師による内視鏡検査が必要とされています。

#### 医療法人三和会 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】

午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】

消化器内科・循環器内科・

消化器外科・緩和ケア内科・

整形外科・内科(ペインクリニック) 他